

平成18年度 鳥取県立大学支援協



競争時代を迎えた大学への一層の支援を呼び掛ける宇津徹男会長

地域一体でもり立て

県立大
宇津
支援協で呼び掛け

県立大学支援協議会（会長・宇津徹男浜田市）が二十九日、浜田市野原町の同大交流センターで開かれた。来春の統合法人化や大学全入時代を迎え、宇津会長が「厳しい状況を乗り越えるため、石見地域一体となって二層大学を支援をして

いきたい」と呼び掛けた。同会は石見部の自治体や高校、PTA連合会などで構成。事業計画では▽学生の就職活動支援▽学園祭支援やマップの配布▽公開講座の広報などにあたるほか、中山間地域をテーマに連携して調査研究活動に取り組む方針を確認した。

また、大学の現状について、宇野重昭学長が、少子化で大学間競争が進む状況を踏まえ「全国で七百余りの大学があるが、今後十年で相当数が経営危機に直面すると言われる。国の財政支援も大規模大学に重点化され、小さな公立大は苦戦している」と説明した。

一方で、国の「魅力ある大学院教育イニシアチブ」事業に、県立大学の北東アジア研究が採択されたことを報告。地域と連携を密にして、独自色

を出した教育研究を進めると表明した。